

MBTI を利用した教育

～未来の教育へのアプローチ～

宮城県仙台第三高等学校 普通科

○要旨

これから先、テクノロジーの発展に伴い教育現場も大きく姿を変えていくことが予想される。同じく技術の進歩によって近年大いに注目を浴びているツールの一つに“MBTI”という性格診断ツールがある。そこで我々は、これから先の教育現場の進展に関して、教育学と、性格診断などの心理学を組み合わせることによって、これまでにない新たな教育の形をつくることを目的とし、探究活動を進めた。我々は、MBTI を利用した教育によって子どもの自己形成をサポートすることを目的としたが、様々な問題点が見つかり、それを考慮した上で最終的には、視点を未来の教育現場に向けることで、教育と心理学を組み合わせる方法を模索していった。

1.はじめに

これから先、ICT や AI などのテクノロジーの発展に伴い社会は変化していき、教育現場も大きく姿を変えることが予想される。そのような時代の流れの中で、同じく技術の進歩によって近年大いに注目を浴びているツールの一つに“MBTI”（性格診断）がある。

MBTI とは、全世界で最も利用されている質問紙方式の検査で、スイスの心理学者カール・グスタフ・ユングが提唱した『心理学的類型』を基にして開発されたものである。だが、現在、日本や韓国の若者を中心に流行している MBTI というのは、公式のものではなく、16Personalities 性格診断テストという簡易的な MBTI である。公式の MBTI では、診断によって様々な効果が期待でき、主な効果として、以下のようなものがある。

- ・生まれ持った自分の「強み」が理解でき、レジリエンス(逆境を乗り越える力)の基盤となる「自分軸」が明確になる。
- ・性格に由来する人間の多様性(ダイバーシティ)を理解し、人とのコミュニケーションを円滑に進めるポイントが理解できる。
- ・自分の生まれ持った性格における課題が明確になり、さらなる自己成長を果たすための指針を理解できる。

我々はこの MBTI をただ一時の流行と捉えず直近での著しい発展と将来的な成長への期待を兼ね備えたものとして、教育学、心理学などの観点から教育現場において効果的に活用できる方法を模索することをテーマとして探究活動を行なっていくことにした。この教育における MBTI(性格診断)の活用法の模索という探究活動に際して、教育学と心理学を組み合わせた教育の先行研究について調査を行なった。我々は心理学として、特に性格診断ツールを導入した事例はないかに着目し、調査した。しかしその結果、現状、どんな心理学の権威に裏付けされた性格診断ツールも教育現場で使用された事例は極めて少ない(我々の調査では該当するものは一つも確認できていない)と分かった。これまで相容れることのなかった二つが互いに関係しあう可能性を発見することができれば、双方の分野の発展・拡大に繋がる事が予想される。

他人に対して無関心であったり、自己中心的な考えを持った人が多いことが現代の教育現場の問題点である。そのような人達の考え方を人と人が密に関わり自己形成に影響を与える教育現場で変えていくことでより良い将来につながっていくと考えた。

2. 考察

調査・実験

上記の教育現場の問題点を解決するために、我々がはじめに考えた MBTI の活用方法は、性格診断ツール(MBTI)を使った教育を通じて、子どもたちの自己形成をサポートするということである。実用案としては、

- ①MBTI で性格診断を行い、教育者のみに結果を伝える。
- ②教育者が診断結果を元に子どもの明確な短所を理解する。
- ③生徒一人ひとりにあった教育を行う

というものを考えた。それに加え、修学旅行の際、合同会社カーニバルライフ代表であり、MBTI 認定ユーザーである山下比佐暢のもとに訪問させていただき、我々の MBTI の利用方法について様々なご指摘と助言を頂いた。

調査・実験の結果

上の実用案では、様々な問題点が発見された。教育と性格診断ツールを組み合わせたときに生じる問題点として挙げられるのは、

- ・子供を性格によって分類し、型にはめてはいけない
 - ・個人に対してベストな教育方針を提示するのが難しい
 - ・個人に合った教育をすることは教育者側の大きな負担になる
 - ・性格診断のみに固執しすぎてしまう可能性がある
- などがある。

考察

上記の通り、現代の教育現場では、教育と性格診断を組み合わせ、十分な効果を得ることは、双方の性質上難しいと考えられる。そこで我々は、着目する点を、現代の教育現場ではなく、この先、未来の教育現場に移すことにした。

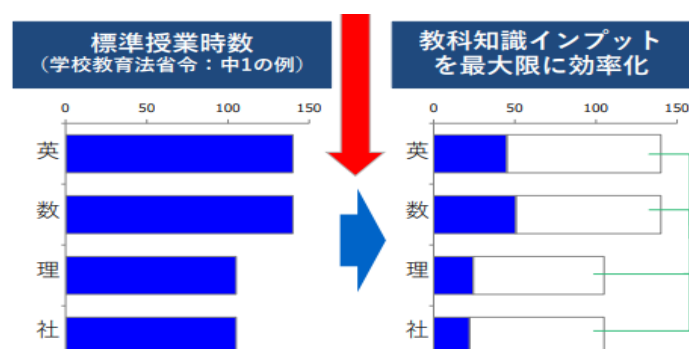
そこで、我々はまず、未来の教育現場がどの様になっているか予測した。

文部科学省が発表している「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(図1参照)という政策によると、この先教育現場では、ICTなどの導入により、指導の個別化や学びの個性化といったことが進められ、個別最適な学びや個に応じた指導が行われる。そして、ICTなどで授業が効率化していき、標準授業時数は減少していくことも予想される。(図2参照)

図1:将来の学び最適化のイメージ



図2:未来の学校での授業時間の変化の予測



そして我々は、これらの教育の個別化や効率化の結果、未来の学校ではイノベーション探究のような、発展的なグループ活動が増加すると予想され、グループ活動の班分けなどで MBTI を利用できると考える。教育の個別化により、個人個人の関わりが減っていき、自分のパーソナリティなども現れにくく理解がしづらくなる。そこで、MBTI 診断で生徒の性格特性を把握し、それを元にグループ活動のグループ分けをすることで、自分にはない性格特性を持っている人と関わることで、自分にはなかったものを得たり、自分に足りてなかった部分などを伸ばすことができる。

3. まとめ

教育と MBTI 診断を効果的に利用していくためには、様々な問題点を考慮したうえで、現代の教育現場ではなく未来の教育現場での利用のほうが適していると考えた。その利用方法として、将来の学校で増加すると考えられる探究のような、発展的なグループ活動において個人個人の性格特性を考慮したグループ分けに利用する。これによって、生徒の持つ長所を伸ばし、短所を改善することができ、生徒の自己形成をサポートする事ができる。

参考文献

文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_01317.html

一般社団法人日本 MBTI 協会

<https://www.mbti.or.jp/attention/>

EARTHSHIP CONSULTING

<https://www.earthship-c.com/mbti/>

abstract

Nowadays, technology and education is making progress, so we think about a new model of education. Then, we try to combine education and MBTI. It is a very popular personal diagnosis among young people. First, we think we will support shaping children's identity through education using MBTI. However, there are some problems. We think it is not suitable for modern education. As a result, we think it is suitable for future school. It has a great effect on group activity. We can support student's school life by education using MBTI.